

今年度の塾説明会は約1年前に竣工した理科・特別教室棟にある視聴覚教室で行われました。出席者は100人余りで、例年の倍くらい参加者がいたように思います。武蔵の塾対象学校説明会は、他校と比べ、各教科の出題者による入試問題の解説時間が長く、話題も豊富で質疑応答があることが特徴です。形式的になりがちな解説もとても実質的で非常に役立つものでした。

■算数について

昨年よりも受験生平均点が7点、合格者平均点が12点も低く、大問3、大問4が難しかったようだ。大問1は31の倍数、約数について出題。大問2は平面図形の辺の比と面積比を出題。これは安易に見た目で90度にしないように注意すること。満点の半分取れば良いので、慌てずしっかり解いてもらいたい。大問4は縦横を色々な長さに変えてみると類題演習が楽しめるのでトライしてみしてほしい。

■国語について

B4 サイズ横長で6枚の長文（中脇初枝著『神に守られた島』）で沖縄の特攻隊のお話。国語も昨年と比べて受験生平均が8点、合格者平均点が10点も低く、最後の特攻隊員が神ではなくなったという部分の読解が小学生には難しかったようだ。漢字の書き取りは全員がほとんど満点。「耕」の3本線が4本になっていたり、「未」を「末」と書いたのがあった。

■社会について

日本からの漂流民についての説明文2枚。御前崎から江戸の海岸線を書き加えさせる問題を出題。（この海岸線を書かせる問題は数年に一度出題されている）細かい知識を要する問題を出題しないためか、知識の暗記を疎かにしている生徒が入学してきており、それでは困るので、これからは短答式の知識問題も出して行く（今年も4題出題）。答案を読むと、難民と移民の区別がついていない受験生が散見された。

■理科について

実験の問題の大問1で、図が全くないので受験生は解答するのに20分かかったようだ。問2は2行、問3は3行、問4は4行書いてもらうことを想定している。問1はほぼ全員正解だった。大問2は月の満ち欠けの定番問題であったため、受験生はすぐに解答できた様子。大問3の袋問題は「紙のしおり」で、理科の教員全員で丸二日かけて作った。価格は最も安い時間が最もかかった。

■まとめ

受検者数は昨年548名、今年579名と31名増加。受験生の実力を知るには、読ませる、書かせるが最適。算数の得点が下がったのは、手数がかかるように作問されていたからだと思う。新しい大学入試傾向は武蔵の入試と合致するので大歓迎。字の上手い、下手は仕方がないが、判読できないのは困る。（例えば「0」と「6」）